

「音楽で豊かな心を育てる」

伊丹市立松崎中学校
主幹教諭 吉木 真一郎

はじめに

このテーマを設定したのは、今から23年前の阪神淡路大震災でのある出来事からだ。震災後、伊丹市も復旧が進まず、周りは瓦礫だらけであった。やっと市バスが再開するという日、バス停で待つ人々は、どの顔も、ストレスによる疲れで心は限界に近づいていた。翌日、そのバス停を通りかかると、空き缶を針金で留め、その中には一輪の花が挿してあった。バスを待つ人々の顔も、昨日とは明らかに違い、ホッとしたような表情に変わっていた。人の心を幸せにしてくれた、「こんな素敵なことができる生徒を育てたい。」これがこのテーマの始まりだった。

1 取り組みの内容・方法

(1) 大切にしていること

音楽と料理はとてもよく似ている。おいしい料理に出会うことができれば、とても幸せな気持ちになるし、またその店に足を運ぼうと思う。料理人は、お客様の「おいしい」という一言をいただくために日々努力し、心を込めて料理をする。生徒たちには、聴いてくださる方に「感動した」と言っていただくために、心を込めて1音1音大切に声(音)を出そうと日々指導している。

(2) 基礎を大切に

音楽は音を素材とした芸術である。生まれては消える儂いものだ。聴き手の心にしっかり残るには、砂地に立派な家が建てられないのと同じで、基礎は大切である。私が思う基礎とは

- ・音楽が聞こえたら自然と手や足でリズムをとってしまう。
- ・笑顔で表現する。
- ・聞いただけで旋律やリズムが再現できる。
- ・拍子がわかる。
- ・調性がわかる(長調、短調、日本音階の曲等)。
- ・音、ハーモニーの美しさがわかる。
- ・聴いてくださる方のために歌おうとする。

この7つの基礎項目を大切に授業に取り組んでいる。

(3) パターン化した授業

授業開始のあいさつの後は、生徒がスムーズに動けるようにパターン化している。

- ・部屋を囲み全員の顔が見えるように並ぶ。
- ・発声練習(ロングトーン)。
- ・既習曲の復習。
- ・簡単な聴音練習。
- ・展開(個人練習、パート練習、合唱練習)
- ・まとめ

(4) 演奏活動

本校では、合唱コンクール以外にも、本校も入学式、卒業式、始業式、終業式、また、修学旅行などの宿泊行事でも合唱を取り入れている。卒業式では、国歌、校歌、式歌以外に、送辞・答辞、退場前にも合唱を入れている。長崎県での修学旅行では、浦上天主堂に何度も交渉し、合唱させていただく機会を得ることができた。素晴らしい響きに生徒たち、職員は感動的な一時を過ごすことができた。

2 取組の成果

(1) 大切にしていること

- ・歌うことに抵抗がなくなってきた。
- ・よく質問、発言をするようになった。
- ・音楽室に入ったら、すぐに音楽をする脳に切り替わる生徒が増えてきた。
- ・脳を活性化することにも役立っている。
- ・聴衆の前で演奏するときも身体全体を使って表現するようになってきた。
- ・自分たちの演奏について感想や講評を求めてくるようになった。

(2) 基礎を大切に

「基礎を大切に」するということについて、音楽を楽しむことができるように、どんな力を付ければよいかと考えた時、自分の経験から上記のように述べたが、生徒の音楽に対する関心・意欲・情熱が深まれば、さらに項目が増えていく。現在取り組んでいる基礎項目も徐々に増えて7項になった。

- ・音楽で勉強するのにどんな力が必要かわかるようになる。
- ・何にでも気がつく優しい生徒が増えてきた。
- ・何事にも一生懸命頑張る生徒が増えてきた。
- ・音を大切にしようとする気持ちが付いてきた。

(3) パターン化した授業

- ・少ない指示で動けるようになった。
- ・次の動きを考えるようになった。
- ・展開でのパート練習が自主的に行えるようになった。

(4) 演奏活動

- ・生徒一人ひとりの意識が高まることで、音楽に対する裾野が広がり、上に高く積み上げやすくなる。音楽関係の部活動にとっては、とても良い環境で練習することができている。
- ・儀式的行事では、「君が代」「校歌」も合唱で歌っているが、先輩たちがとても良い手本になっている。
- ・浦上天主堂での合唱では、最高の環境で合唱できることを生徒たちは幸せに感じ、感謝の気持ちを込めて美しいハーモニーを響かせることができた。

今まで、たくさんの先生方のご理解とお力をお借りして取り組んできた。言い換えれば、先生方のお力がなければ、自分一人では何もできていない。浦上天主堂での合唱は、数度の交渉後、国語科の教員に嘆願書を作成していただき、それをさらに学校長の添削が入り、何度も現地に足を運び、実現にこぎ着けた。生徒たちもそのことを知り、教師と生徒の信頼関係がとてもよい状態での修学旅行になり、行きの列車の

中では、どの車両からも歌声が響き、期待以上の合唱となった。

3 課題及び今後の取組の方向

我々音楽科教員は、行事ごとに全校生徒の前に立ち指導している。今、音楽科教員が各校1名配置という学校が多い中、学校としての「伝統」を守っていくために音楽科教員ができること等、伝えていく方法を考えていきたい。

